使い方ですが,

- とりあえず, <u>ccnrun.batダブルクリックするとシミュレータが動きます</u>. 全ノードが全ファイルをDLするとシミュレータは完了しますが、まだ完全ではなく、多分終わらないので、途中でCtrl+Cで終了させてください、そして、<u>ccn/ccnlog.csvにログが上書きモードで出力されます</u>. Excelで開くと、大体は分かると思います.
- docs/api/index.htmlで, javadocが見れます. が, コメントが不十分です.

1. キャッシュアルゴリズムについて:

- キャッシュアルゴリズムですが、src/net/gripps/ccn/caching/BaseCachingAlgorithm.javaのクラスを「継承」したクラスを作ることになります。今は、OnPathCaching.javaが、BaseCachingAlgorithmを継承して使われています。このOnPathCahing.javaのような継承の仕方をして、新規クラスを作ってください。
- 新規キャッシュアルゴリズムの開発方法:ccn.propertiesの、「ccn_caching_no=0」→「ccn_caching_no=1」(使われるインデックス番号)とし、「ccn_caching_allnum=1」を「ccn_caching_allnum=2」(アルゴリズムの候補数)とします。そして、/src/net/gripps/ccn/core/CCNRouter.javaの

```
this.cachings[0] = new OnPathCaching();
this.cachings[1] = new NoCaching();
/***こまで**/
this.usedCaching = this.cachings[CCNUtil.ccn_caching_no];

this.cachings[0] = new OnPathCaching();
this.cachings[1] = new NoCaching();
this.cachings[2] = new 新規クラス名();
/***ここまで**/
this.usedCaching = this.cachings[CCNUtil.ccn_caching_no];
としてください、これでOKかと思います。
```

2. FIBルーティングアルゴリズムについて:

this.bcs[2] = new 新しいクラス名():

としてください.

this.usedBC = this.bcs[CCNUtil.ccn_bc_enable];

```
- FIBルーティングアルゴリズムでは、/src/net/gripps/ccn/fibrouting/BaseRouting.javaのクラスを「継
承」したクラスを作ることになります、今は、ChordDHTRouting.javaが、BaseRouting.javaを継承して使
われています.ぶっちゃけこれを使って試験してもいいけど
- 新規FIBルーティングアルゴリズムの開発方法:ccn.propertiesの, 「ccn_routing_no=0」→「
ccn_routing_no=1」(使われるインデックス番号)とし、「ccn_routing_allnum=1」を「ccn_routingg_allnum=2」
(アルゴリズムの候補数)とします. そして、/src/net/gripps/ccn/process/CCNMgr.javaの、
     /***ここに、ルーティングアルゴリズムを列挙してください***/
     this.routings[0] = new ChordDHTRouting(this.nodeMap, this.routerMap);
     this.usedRouting = this.routings[CCNUtil.ccn_routing_no];
を
     /***ここに, ルーティングアルゴリズムを列挙してください***/
     this.routings[0] = new ChordDHTRouting(this.nodeMap, this.routerMap);
     this.routings[1] = new 新しいクラス名(this.nodeMap, this.routerMap);
     /**************/
     this.usedRouting = this.routings[CCNUtil.ccn_routing_no];
としてください.
3. BreadCrumbs(パンくず)アルゴリズムについて:
・パンくずアルゴリズムですが、/src/net/gripps/ccn/breadcrumbs/BaseBreadCrumbsAlgorithm.java
のクラスを「継承」したクラスを作ることになります. 今は、BreadCrumbsAlgorithm.javaが、
BaseBreadCrumbsAlgorithm.javaを継承して使われています.
- 新規パンくずアルゴリズムの開発方法:ccn.propertiesの,「ccn_bc_allnum=2」→「ccn_bc_allnum=3」
(アルゴリズムの総数)とし、「ccn_bc_enable」の値を田例えば「2」(指定するアルゴリズムの番号(0から
開始))とします. そして, /src/net/gripps/ccn/core/CCNRouter.javaの
     this.bcs[0] = new NoBreadCrumbsAlgorithm();
     this.bcs[1] = new BreadCrumbsAlgorithm();
     this.usedBC = this.bcs[CCNUtil.ccn_bc_enable];
を
     this.bcs[0] = new NoBreadCrumbsAlgorithm();
     this.bcs[1] = new BreadCrumbsAlgorithm();
```

・コンパイルは、antを使います. build.xmlと同じディレクトリで、コマンドプロンプトで「ant build」を打つとコンパイルします.

antのインストール方法は、ネットで調べてみるのがいいです.

とりあえず環境変数にANT_HOME=antのディレクトリ(例:c:\ant)を設定し, pathに%ANT_HOME%\bin を 設定する必要があります.

4. Churn(ルータ参加・離脱)アルゴリズムについて:

- Churnアルゴリズムでは、/src/net/gripps/ccn/churn/BaseChurnResilienceAlgorithm.javaのクラスを「継承」したクラスを作ることになります、今は、ChordDHTCRAlgorithm.javaが

BaseChurnResilienceAlgorithm.javaを継承して使われています. ぶっちゃけこれを使って試験してもいいけど

- 新規Churnアルゴリズムの開発方法:ccn.propertiesの,「ccn_churn_enable=0」→「ccn_churn_enable=2」(使われるインデックス番号)とし,「ccn_churn_allnum=2」を「ccn_routingg_allnum=3」(アルゴリズムの候補数)とします。そして、/src/net/gripps/ccn/process/CCNMgr.javaの,

としてください.

以上